

## いよいよ団塊世代が定年になる！

人気作家の弘兼憲史氏の描く漫画「島耕作」のファンというサラリーマン諸氏も多いことと思います。言うまでもなく私もその一人です。二十年前に「係長・島耕作」が始まった同シリーズも今では取締役に出世をいたしました。

西暦二〇〇七年は、いわゆる団塊の世代といわれる世代が定年を迎える年でもあります。漫画の主人公・島耕作もまさにその団塊世代なわけです。

このほど中小企業社員を対象とした政府管掌健康保険は、保険料収入が大幅な減少ないが予測される二〇〇七年を境に赤字に転落すると発表しました。日本は少子高齢化と人口減少が進む中、本当に高齢者を支えられるのか？人口がピークとなる二〇〇六年の翌年からいきなり島耕作世代の定年が始まります。その数や全人口の五・三%にも達するマンモス世代です。

日本の高度成長の礎を築き、支えてきたこの団塊世代への年金支給は、逆に言うと同世代にわたり制度の重荷になり、リスクを被る形の若い世代からは「団塊世代は逃げ切り世代」と揶揄される皮肉な現象を生んでいるわけです。ビートルズ愛し、フォークソングに親しみ、車の流行を追っかけ、日本の消費文化を象徴する団塊世代が、逆に今度は不安要因のなるうとしていきます。

著者である弘兼憲史氏は「島耕作の定年後は『ボランテニア・島耕作』を計画中」とか。六百八十万人も言われる島耕作世代はボランテニアとして日本を支えるか、少子世代にぶら下がるのか、今こそ政治家の政治センスが問われます。

昨年は、厚生労働省・社会保険庁の国民年金や厚生年金保険料の流用等、年金がらみの年でした。昨年六月に与党による数の暴挙によって年金改革関連法案が可決されましたが、ただ単に同十月からの保険料が引上げられただけで改革は全く進んでいません。我々民主党と与党が同五月に年金制度の一元化を含む社会保障制度の見直しを〇七年三月までに実施することを前提に、協議機関を設けることになっていましたが、与党側の党利党略により一向に具体化しませんでした。

私は、厚生年金・共済年金・国民年金の一元化を含む社会保障制度の見直しに向け、現在の会社員、自営業、公務員、専業主婦など職業によって別々の仕組みになっている公的年金を一つに統一しようとして主張してきました。

職業に関係なく全ての人が所得に応じて保険料を支払い、たくさん保険料を支払った人は、その分多くの保険料を受け取ることができ、一方で収入の無い人には最低保障年金を設けるシステムの早期確立を目指し、通常国会では、是非の立場で臨みたいと思います。

平成十七年三月